

## 夜間の視認性を向上

# 白熱電球より明るいハロゲンヘッドライト

「遠くまで明るく」が  
進化のキーワード

夜間走行を支えてくれるヘッドライトは、暗い道路での視認性を向上して「安全運転」に一役買っている装置のひとつ。「遠くまで明るく」。このキーワードは進化に至る主軸となっているのだ。

安全な夜間走行に欠かすことができないヘッドライト。その歴史を辿ると、創成期にはアセチレンランプや白熱電球がその役割を担ってきた。しかし、寿命の短さや光量不足といった弱点を克服したハロゲンライ



Hondaにおけるハロゲンヘッドライト初搭載車種となったシビック

トの登場によって、ヘッドライトの視認性は飛躍的に向上。現在に至るまで広く普及して、夜間運転の安全性に寄与し続けている。

2020年4月に迫った「オートライト」の義務化に加え、ドライバーの交通安全に対する意識がより高まってきたいま、交通事故を未然に防ぐ予防安全の観点からもさらに明るく視認性に優れたヘッドライトのニーズが高まる一方だ。開発現場においても積極的に研究開発が行われているカテゴリーで、現在はハロゲンライトよりもさらに明るく長寿命のLEDライトをはじめ、ステアリング舵角に連動して、ヘッドライトが進行方向を照らし、カーブや交差点での明るい視界を確保するためのA.F.S. (Adaptive Front Lighting System) も登場。ただ明るさを求めるだけでなく、クルマが進むべき方向の視認性をより高めるといったアプローチでドライバーはもちろん、歩行者や他車の安全にも配慮したシステムが普及しつつあるのだ。

さらにホンダでは、センサーとカメラで検知した情報をもとに安心・快適な運転や事故回避をサポートする「Honda SENSING」に「オートハイビーム」機能を実装。夜間走行時、街灯などがなく、暗い道を走行している時は自動的にハ



オレンジの車体は、1.5Lのエンジンで85馬力を誇ったCXの専用色

イビームに。また、前走車や対向車を検知すると自動的にロービームに切り替えてくれる。特別な操作は一切不要で、ライトスイッチを「AUTO」にしてドライバーの負担が軽減され、夜間走行における視認性が向上されることで安全運転につながっていく。